



ラオス国世界遺産都市における高度処理型浄化槽の導入による水環境改善事業

実施機関・協力機関

【日本側】

- ・(株)那須クリエイト
- ・日本テクノ(株)
- ・(公財)日本環境整備教育センター

【ラオス側】

- ・ルアンパバーン市都市開発行政事務所
- ・ルアンパバーン県公共事業運輸局
- ・ルアンパバーン県天然資源環境局

事業の背景

- ラオス国は主要産業である鉱業・電力業等の資源開発への依存から脱却し、農業、サービス、観光業、製造業を中心とした経済への転換を目指している。観光産業は国のGDPの約4割を占めており、空港ターミナルビルが新設され、観光ホテルの建設が進むなど、観光客が急増している。
- ルアンパバーン市は、市街地全体が世界遺産に指定されている。市内に簡易なトイレが多く存在し、し尿が適切に処理されず、雑排水は未処理のまま放流されている。観光産業の発展と人口増加に伴い、湖沼の水質汚濁が進行し、観光産業への悪影響が懸念されている。
- 2017年に環境基準が改定され、一定規模以上の建築物に厳しい排水基準(BOD 20 mg/L以下)が導入された。排水基準を満たし、世界文化遺産都市に相応しい汚水処理施設の整備が急務である。



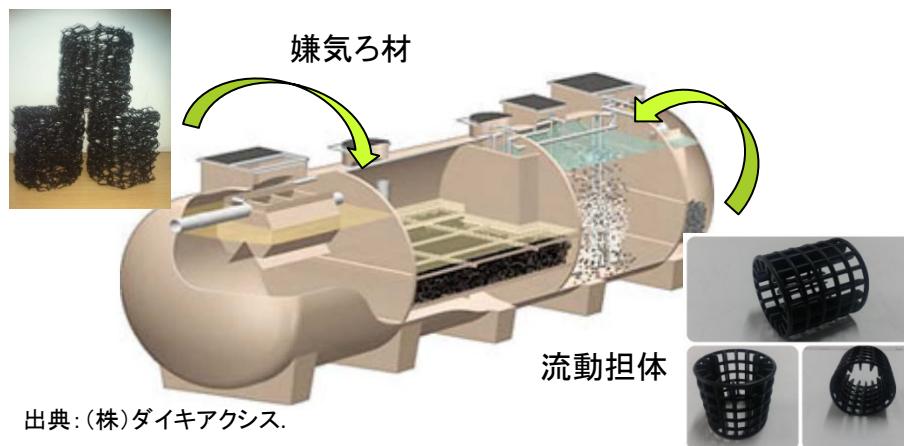
実施場所

ラオス人民民主共和国

ルアンパバーン市

導入する技術の概要

- 日本の浄化槽メーカーが開発した東南アジア諸国のアンモニア規制対応製品で、コンテナ輸送が可能。20か国、約1,500基の販売実績を有する。
- 従来型と比較し、設置面積が少ない省スペースタイプかつ、電気消費量が低減される省エネタイプ。
- 長寿命で耐久性に優れ、維持管理が容易なため開発途上国に適する。



出典:(株)ダイキアクシス.

期待される成果・事業化展望

- 導入された高度処理型浄化槽の処理性能の実証による水環境改善効果の確認
- 現地の流入水量・水質に適した浄化槽の導入手法(設計・施工)と維持管理技術の検討
- 浄化槽の導入に必要な規制や制度の検討
- ラオスの実情にあった浄化槽ビジネスモデルの構築

- 日本の浄化槽技術(高度処理型浄化槽)による質の高い汚水処理が実現することによって、衛生環境及び水環境が改善され、世界遺産都市の観光資源保全に貢献する。
- これまでの国内およびベトナムでの浄化槽ビジネスのノウハウとネットワークを活用することで、ラオス国に適した浄化槽技術を導入し、EPC+OMを一体化したビジネスモデルを構築する。